
灰原哀で18の御題

月城レイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

灰原哀で18の御題

【Nコード】

N8415T

【作者名】

月城レイ

【あらすじ】

自サイトで主催している御題シリーズです。

順不同でコ哀、新志、新哀などの短編を掲載します。苦手な方はご遠慮ください。

予告なく加筆修正する場合があります。

寝顔

正直言つて普段のこいつはマジで可愛くないと思う。顔ではない。容姿自体は恐らくとても綺麗な部類に入るのだろう。小作りで透き通るような肌に、柔らかそうな茶色い髪。すつとした眼差しは見る奴が見れば極上だという筈だし、きっと五人中四人は美人だと認めるだろう。

だが、俺は五人中の最後の一人だ。なぜなら、こいつは迂闊に触れれば火傷するような女だからだ。言葉という名のナイフでこちらの弱いところをずばずばと切り込んでくる。

それでも確かに今のこいつは可愛いと思う。肩の重みに振り替えると、綺麗な顔が目の前にあつてドキリとした。いつまでも無邪気に遊び転げる子供たちと一緒に見守っていたはずの灰原は、疲れたのかいつのまにか寝入っていた。

日差しに照らされたこいつの顔が透き通るように綺麗で、顔に熱が集まつて焦ってしまう。あどけない顔をついまじまじと見てしまう。

——いつも、こんな顔をしてりゃーいいのに。

だまつてニツコリと笑いでもすれば、男の一人や二人簡単に落とせそうだ。思わず男を手玉に取る灰原を想像し、多少可愛くなくても今のままでいいと思いなおす。

「なんでモヤモヤすんだ？」

「あら、拾い食いでもしたの？」

「あんな……」

理由が分からず首をかしげていると返答が返ってきてギョツとする。しかし、あまりにもな言いように思わずジト目を向けてしまう。「あら、何かしらその目は。人の寝顔をまじまじと見る変態さん」「おまつ」

起きてたのかと言葉にならない俺に灰原は驚いたような顔をした。

——冗談だったのかよ。

思わず顔が真っ赤になってしまう。

つられるようにうつすらと顔を染める灰原を迂闊にも可愛いなと思ってしまったのは、誰にも内緒だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8415t/>

灰原哀で18の御題

2011年6月6日11時11分発行